

風景の近代

写実から心景へ

Modern Landscapes

: From Realistic to Feeling

2021年

2月20日 [土]

4月4日 [日]

休館日 毎週月曜日

開館時間 9時30分～17時（入館は16時30分まで）

入館料 一般730(650)円、大学生510(460)円、高校生以下無料

※（ ）内は20名以上の団体料金

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、日光市公共施設

使用料免除カードの交付を受けた方とその付き添いの方1名は無料

※第3日曜日「家庭の日」（2月21日・3月21日）は、大学生無料

主催

公益財団法人小杉放菴記念日光美術館、日光市、日光市教育委員会



小杉放庵《厳島風景》1933（昭和8）年 小杉放菴記念日光美術館蔵

KOSUGI HOAN
MUSEUM OF ART,
NIKKO



小杉放菴記念日光美術館

「風景」は、古くから洋の東西を問わず描かれてきた画題です。日本においても実に様々な風景画が描かれてきましたが、明治という新たな時代の幕開けとともに興隆した「洋画」により、その様相は大きく変化します。

黎明期の洋画において欠かせないのが、1876（明治9）年に開校した「工部美術学校」の存在です。西欧諸国に比肩するため、明治新政府が殖産興業の一環として設立した学校ではありませんでしたが、政府の思惑とは別に、浅井 忠や小山正太郎らの画道を志す若者が集まりました。しかしながら、財政難によりわずか7年あまりで閉校。さらに、これまでの欧化政策の反発により、洋画は不遇の時代を迎えます。その間、彼らが身につけた「写実」は、外国人観光客が買い求めた、日光などの名所を題材とした「おみやげ絵」の制作に利用されたのでした。

明治の半ば、黒田清輝が印象派風の明るい色彩を携えて帰国したことを機に、洋画は次第に認められるようになり、明治末から大正にかけては、水彩画の普及と自然主義文学の台頭により、身近な風景に美が見出されるようになります。

そして昭和の始め、画家たちは西洋の模倣から脱し、自己の画風を確立します。とりわけ、日本画・洋画ともに独自の画境を開きつつあった小杉放菴と、還暦を過ぎて「単純化」の境地に至った藤島武二が代表的な存在として挙げられます。彼らの風景画を見ると、タッチや風景へのまなざしに、画家の個性が表れていることが明らかになります。

「写実」的に描かれた風景は、いかにして「心景」へと変化したのか。本展は、近代日本の風景画の変遷を当館の所蔵作品でたどるものです。



【会期中のイベント】

担当学芸員によるギャラリートーク
(予約不要・要入館料)

2月27日 [土]・3月27日 [土]

各日 11時～（1時間程度）

【同時開催】

コレクションによるテーマ展示
〈春の足音〉

小杉放菴の春らしい作品をご紹介します。

【次回展予告】

〈日光に生まれて—6人の画家の風景〉

2021年4月10日 [土]～6月20日 [日]

右上から時計回りに 河合新藏《海岸風景》制作年不詳／藤島武二《屋島よりの展望》1932（昭和7）年／小杉放菴《水亭》1932（昭和7）年／国府浜国太郎（小杉放菴）《東照宮・陽明門》1900（明治33）年 すべて小杉放菴記念日光美術館蔵



【アクセス】

○電車・バスをご利用の場合

東武線「浅草駅」またはJR線「新宿駅」から特急で「東武日光駅」下車。もしくはJR「宇都宮駅」からJR日光線「日光駅」下車。東武バス「世界遺産めぐりバス」もしくは「奥細尾行」「清滝行」「中禅寺温泉行」「湯元温泉行」に乗り換え、「神橋」下車。徒歩3分。

○お車をご利用の場合

日光宇都宮道路・日光インターから約2km
併設の神橋駐車場をご利用ください。当館受付で駐車券を提示していただくと、1時間まで無料となります。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、
会期等が変更になる場合があります。



〒321-1431 栃木県日光市山内 2388-3

Tel: 0288-50-1200 www.khmoan.jp



小杉放菴記念日光美術館